

平成30年第11回教育委員会会議録

日 時	平成30年9月20日（木）16時00分開会 16時40分閉会
場 所	教育長室
出席委員	教育長 宮 崎 肇 委 員 佐々木 義 朗 委 員 荒 井 由紀恵 委 員 橋 場 正 人 委 員 吉 村 恭 子
欠席委員	—
事務局職員	教育部長 澤 田 徹 教育部次長 千 田 義彦 教育部学校指導室長 小 松 義幸 企画総務課長 伊 藤 樹美 学校教育課長 高 橋 裕輔 学校指導課長 佐 藤 貢
書 記	企画総務課総務係長 田 中 稔 大
議題及び議事の概要	別紙のとおり

1 第11回教育委員会会議付議事件及び結果表

平成30年9月20日（木）16時00分開会

16時40分閉会

事件番号	件名	議決結果
議案第1号	教育委員会職員の任免について	原案可決
報告第1号	平成30年度ハイパーQU検査（6月実施）の結果について	報告済

2 議題及び会議の概要

教育長	<p>平成30年第11回教育委員会会議を開催いたします。</p> <p>議案第1号 教育委員会職員の任免につきましては、人事に関する議事であるため、秘密会にしたいと考えますが、よろしいでしょうか。』</p>
委員	(委員 一同了承)
教育長	それでは日程2に入ります。会議録の承認について、お願いします。
総務係長	<p>平成30年9月13日に開催されました平成30年第10回教育委員会会議は、議案が1件、報告が1件ございました。</p> <p>議案につきましては、議案第1号 平成30年千歳市議会第3回定例会教育行政報告について、原案のとおりご決定いただいております。</p> <p>また、報告につきましては、報告第1号 平成30年度新体力テストの実施方法改善に向けた実践事業（報告）について、報告済みとさせていただきます。</p> <p>以上でございます。</p>
教育長	会議録の承認の件は、よろしいでしょうか。
委員	一同了承
教育長	<p>それでは、日程3 教育長の報告に入ります。</p> <p>私の方からご報告をさせていただきます。</p> <p>佐々木義朗 教育委員会委員の任期が今月末をもって満了となりますことから、去る9月18日の第3回定例市議会におきまして、引き続き、佐々木委員を教育委員会委員として選任をするということで、市長から提案があり、議会からも同意をいただいたところであります。4期目となります。よろしく願いいたします。</p> <p>なお、佐々木委員におかれては、現在、教育長職務代理者を担っていただいておりますが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項において、教育長職務代理者は教育長があらかじめ指名することとなっておりますので、私の方から、佐々木委員を指名いたしましたので、ご報告をさせていただきます。</p> <p>それでは、日程4 議案に入ります。</p> <p>議案第1号 教育委員会職員の任免について、説明をお願いします。</p>
委員	一同了承（秘密会：原案可決）

教育長	<p>それでは、議案第1号については、ただいまの内容で、決定することといたします。</p> <p>次に日程5 報告に入ります。</p> <p>報告第1号 平成30年度ハイパーQU検査（6月実施）の結果について、説明をお願いします。</p>
学校指導課長	<p>私から、「平成30年度ハイパーQU検査（6月実施）の結果」についてご報告いたします。資料の量が多いことから、本日お配りしたA4両面印刷のダイジェスト版を中心に、ご説明いたします。</p> <p>別冊をご覧ください。めくっていただくと、本検査の目的について記載しております。よりよい学級集団づくり・学校づくりに活用し、いわゆる学級崩壊の予防やいじめ、不登校の未然防止に役立てるものです。また、標準学力検査との関連から、学習において支援の必要な児童生徒を把握して、実際の指導に生かし、学力向上に役立てることを目的としております。</p> <p>教員は常に子どもたちの様子を観察し、その把握に努めていますが、本調査結果による客観的なデータを活用し、見落とししている部分を補いながら、また、自らの観察による判断の妥当性を確認しながら、子どもたちへのアプローチを行うこととしております。</p> <p>表紙の裏に目次がございます。本報告書の構成は「1 ハイパーQU検査の概要」「2 千歳市の結果」「3 各学校の結果」「4 結果の分析」の4項目から成っています。「3 各学校の結果」など、秘匿性の担保に配慮すべき情報も含まれておりますので、取り扱いには十分にお気をつけください。</p> <p>それでは、ダイジェスト版をご覧ください。本検査結果から見る本市児童生徒の「学校生活意欲」について、説明いたします。</p> <p>まずは、小学校の学校生活意欲総合点を、全国を100とした数値の青色の棒グラフをお示ししております。どの学年においてもについて、全国を超えていることがわかります。右の折れ線グラフをご覧ください。同一集団における学校生活意欲総合点の経年変化であります。学年が上がるにつれて向上する傾向が見られます。この学校生活意欲総合点は、「学級の雰囲気」、「友達関係」、「学習意欲」の3領域の満足度の総合点となりますが、ダイジェスト版では、「学習意欲」を取り立てて記載しています。</p> <p>ひとつ下がったところに、小学校の学習意欲のグラフがありますが、大きな特徴として2点あります。1点目は、学年による差が大きいことです。3年生と6年生の学習意欲が相対的に低い数値となっています。2つ目の特徴としては、同一集団の推移を見ていきますと、どの集団も4年生で向上が見られることから、3年生から4年生にかけて、学習意欲の向上に向けた指導が重要であります。ダイジェスト版のグラフからは読み取りづら</p>

い情報でもありますので、別冊の結果分析に、小学校における学習意欲の推移が学校ごとに出ておりますが、多くの学校で3年生から4年生にかけて右上がりになっていることがわかるかと思えます。

もう一度ダイジェスト版に戻っていただいて、中段以降、中学生の結果をご覧ください。グラフの構成は小学校と同じです。全てのグラフにおいて全国を超えていることが分かります。学校生活意欲総合点、学習意欲の二つの折れ線グラフともに、新入学後の6月にピークを迎え、その後、緩やかに低下しますが、再び緩やかに向上しております。

新入学時の新鮮な気持ちが、学習内容の難易度が上がることや思春期における対人関係の悩みなどから、徐々に薄れ、自己肯定感の低下につながっていることが予想されます。学習内容が理解できないなどの理由で、「自分はだめだ」と感じ始める生徒は、新生活に期待があった分、尚更反動が大きく、学校生活への満足度が低下してしまいます。

このことから、中学校においては、1年生後半から見えてくる変化を見落とさず、困難を乗り越えたという成功体験をはじめ、日常的にその生徒にあった声かけや指導が必要になってきます。

ダイジェスト版の裏面をご覧ください。中学校における進路意識は先程のグラフと同様に緩やかに下降し、進学に向けた意識が上がる頃にやや上昇します。このグラフからも1年生後半2年生中ごろまでの指導が特に鍵を握ることが分かります。進路意識の高揚を促すプラスの働きかけ、家庭と連携した個々の生徒の状況把握など、きめ細やかな指導が必要となります。

次のグラフをご覧ください。学級満足度を学年ごとにお示ししています。赤色の棒グラフが親和的な学級集団です。小学校5年生の28%、中学校2年生の70%と学年によって相当の違いがあります。良好な学級集団は子どもたちの健全な成長を支えることを踏まえて、全ての学級が親和的集団となるよう学校体制の中で指導していくことが求められます。

ただ、本検査は学級の状態をつかむのが1番目の目的ではありますが、今ずっとお話ししたのは、市内全体の様子でありますので、別冊にある各学校の結果をご覧ください。中段に、学級満足度ということで、同じ学年の2クラスのレーダーチャートグラフがあります。右の学級では、上に細長く緑が伸びています。これは満足群が多いということになります。左側に行くと侵害行為認知群ということで、いじめにつながりそうな行為があるですとか、右に行くと非承認群ですので、先生や友達から認められていないと感じている子の数になります。下に行くと、相対的に何か不満を持っているという子なのですが、この学級は非常に良い状態のグラフであります。

別の学校の学級でもほぼ同じような上に細長いグラフがあります。本検

査は、担任のパーソナリティに原因を求めるものではないのですが、実はこれらの学級の担任の先生は、過去の学級もすべて、ほぼこのような形になっております。ですから、こういった情報を共有して、良い学級経営をされている先生の学級がどうしてそうなっているのかといったあたりを、校内の中で共有していただくのが、今回の検査の一番の目的でもあります。

それでは、ダイジェスト版に戻っていただければと思います。最後のグラフをご覧ください。ソーシャルスキルと書いております。そして、「配慮」「かかわり」という用語が出てきますが、「配慮」については、「友達の気持ちを考えながら話をしている」ですとか、「何か失敗したときに『ごめんなさい』と言っている」「友達が話しているときは、最後まで聞いている」「友達との約束は守っている」などの8つの質問を児童生徒に問うています。「かかわり」については、「みんなと同じくらい、話をしている」「みんなのためになることを見つけて実行している」「ほかの人に左右されず、自分の考えで行動している」などの質問を同じく8問、児童生徒に問うています。

このソーシャルスキルについては、どの学年においても全国平均を超えています。また、学力との相関を見ても、全ての学年で、全国平均である70%を超えており、一斉指導の対応量は全市的に見ると、比較的しやすい状態にあるといえます。

ちなみに、80%以上であると比較的ではなく、指導がしやすい集団といわれ、中学校はどの学年においても、80%を超えているので、相対的に見ると、指導がしやすい学級が多いということが伺えます。

別冊の学力とのクロス集計の棒グラフをご覧ください。

ソーシャルスキルと学力のクロス集計の棒グラフについて、相関においては、学校間の格差が見られることから、各学校はこれらの結果をもとに、学級担任だけの対応ではなく、学校全体としての対応が求められます。特にベテランの先生で素晴らしい学級を作った先生でも、その年度はうまくいっていないというケースも見受けられます。ですから、やはり担任の指導だけによるものではなく、学校全体で公開して、課題のある学級については、全員が目を掛け、声を掛けていくという体制を構築するということが大事であります。

同じ学校で同じ学年の学級満足度のレーダーチャートを見ますと、学級の状態がさまざまであることがわかります。学校では、こういったことをなかなか、担任の指導が良い悪いというふうに捉え過ぎてしまって、オープンにしづらいところがあるのですが、本検査の趣旨を学校にも理解してもらって、とにかく皆で育てていこうという空気感を学校で目指すようにということで、学校訪問等をお願いしているところでございます。

	<p>ダイジェスト版にお戻りください。</p> <p>最後に今後の課題として3点挙げております。</p> <p>1つ目は活用計画の充実です。本検査は6月と11月に実施しておりますので、その2回を検証機会として、年間の計画を策定することが必要です。つまり、6月と11月の間の今、どんな働きかけを学校がしているかというところが、鍵をにぎります。</p> <p>2つ目は分析と対応の促進です。個別の支援を必要とする児童生徒や指導が困難な学級へどうアプローチするかを校内全体で具体的に申し合わせる必要があります。</p> <p>3つ目は学校改善の指標としての活用です。各学校においては、特に親和的集団の育成と学習意欲の向上につなげる資料として、先ほどの良い学級を作っている先生の学級経営から学ぶというような、研修を持っていただくようなことを促しております。</p> <p>これらのことについて、今後、校長会議、教頭会議において、指示・伝達していくとともに、10月5日に実施いたしますハイパーQ U研修会では、各学校の事例発表などを通して、優良実践の共有を図ってまいります。</p> <p>限られた時間の中でございましたので、ダイジェスト版を使用しての説明をいたしました。後ほど、別冊をご覧になっていただくと幸いに存じます。</p> <p>以上で報告を終わります。</p>
教育長	<p>それでは、只今の説明に対して、ご意見、ご質問等ありますでしょうか。</p>
佐々木委員	<p>先ほど、良い学級を運営されている先生は、過去の学級においても同様であったということでしたが、逆に悪い先生というのも、過去のデータを持っているのですか。</p>
学校指導課長	<p>そこは、実はまだ精査していないところなのですが、また今後も詳細は見ていきたいと思うのですが。</p>
佐々木委員	<p>やはり、過去の結果を見ても、先生によって何年前と同じように、常に同じ形が出るというのは、そういう結果なんでしょうね。</p>
吉村委員	<p>まあ、先生のパーソナリティというのはあるのでしょうか。</p>
学校指導課長	<p>やはり子どもがすごく変わってきているというのを、先生方はおっしゃいます。画一的な指導ではなくて、子どもたちの実態を見て、指導を変えられる先生が、こういう結果を出しているかなというふうには思います。</p>

荒井委員	良い学級経営の例で挙げられた先生方は、ベテランの先生ですか。
学校指導課長	必ずしもそうではありません。中には30代前半の方もいます。
佐々木委員	子どもたちにとって、何か魅力があるんでしょうね。
吉村委員	こういう学級の子どもたちは、仲良いのでしょうね。学級の中が落ち着いているというか。
学校指導課長	そうですね、安心して学級にいられるという状態です。
教育長	ほかにありますか、よろしいですか。後ほど、ご覧になっていただいて、何かありましたら、学校指導室にお問い合わせいただければと思います。よろしいですか。
委員	一同了承（報告済）
教育長	それでは、報告第1号については、報告済みといたします。 日程6 その他について、事務局から何かありますか。
次長	資料でお配りしております、平成30年度一般会計補正予算についてですが、被災対応の教育費関係分を取りまとめたものとなります。 現在、財政課で取りまとめの途中でありますことから、実際の提案につきましては、10月上旬の議会で提案する予定となっておりますが、金額については、精査される予定であります。 台風21号の対応に係る補正予算については、危険木・倒木の撤去が主なものになります。 北海道胆振東部地震の対応に係る補正予算については、文教施設の修繕、避難所開設に伴う費用弁償が主なものとなります。
教育長	よろしいですか。
委員	一同了承（報告済）
教育長	これもちまして、本日の教育委員会会議を終了します。